

EU の政治経済状況

みずほ総合研究所 欧米調査部

上席主任エコノミスト 吉田健一郎

EU 設立までの道のりは決して平たんなものではなかった。
EU とはどのような組織なのか。加盟国に広がる離反の動きの背景とは。

現在の欧州連合 (EU) は、英国を含む 28 カ国が加盟する政治・経済の統合体である。総面積は約 420 万平方キロメートルと日本の約 12 倍、総人口は約 5 億人と日本の約 4 倍、国内総生産は約 15 兆ユーロで日本の約 3 倍と巨大な政治・経済圏を有している。

欧州の恒久的平和に向け

欧州統合プロジェクトは、第二次世界大戦後に始まった。1950 年 5 月 9 日、フランスと西ドイツの石炭・鉄鋼資源を超国家的機関により共同管理しようという「シューマン・プラン」をフランスのロベール・シューマン外相が発表したことが始まりとなる。このシューマン・プランを策定し、EU 黎明期に中心的な役割を果たしたのが、フランスの実業家・政治家であるジャン・モネである。

モネの狙いは、第一に欧州に恒久的な平和をもたらすことであった。過去、独仏の係争の地であり続けた独ルール地方と仏ロレーヌ地方の地下資源を超国家的機関により共同管理することは、独仏の積年の敵対関係の解消につながると同時に、ドイツの軍事的再拡大を抑制するものでもあった。

第二の狙いは、欧州重工業の要である独仏の鉄鋼・石炭を共同管理とすることによって、欧州全体の戦後経済復興の基盤にしようというものであった。また、フランスにとってもドイツの石炭は自国の復興に不可欠であった。

シューマン・プランを基礎として、52 年には欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC)、58 年には欧州経済共同体 (EEC) と欧州原子力共同体 (Euratom)

が設立された。3 機関は欧州諸共同体 (EC) と総称されるようになり、67 年には理事会および執行機関が統合された。3 機関のうち統合の中心となったのは EEC であり、以降、欧州統合は単一市場の創設など経済面を中心に進んできた。

経済統合から政治統合へ

EC は、92 年に調印されたマーストリヒト条約に基づき 93 年に EU として生まれ変わった。単に名称が変わっただけでなく、これまでの経済中心の統合から、外交安全保障や司法・治安での協力など政治統合としての側面が強まることになった。背景には 89 年のベルリンの壁崩壊を契機と

図表 1: EU28 各国の一人当たり GDP (2016 年)

